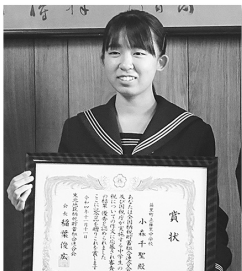


# 「税についての作文」

## 祝 東北地区納税貯蓄組合連合会会長賞及び藤里町長賞

11月25日、藤里中学校において、東北地区納税貯蓄組合連合会会長賞に選ばれた小森千聖さんに表彰状が授与されました。また、12月5日には、藤里町役場において、藤里町長賞が授与されました。



### 作品紹介

#### みんなの生活や未来を支える税

「税って何だかわかる？」 そう聞かれても私には説明できません。消費税くらいは分かってても、税に関心がわくほどではありません。そんな私が税に関心をもったきっかけは、とても身近なところにある。

進級して、新しい教科書に名前を書いていくときです。裏表紙に「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています」と書かれているの気が付きました。他の教科書を見ても、同じように書いていました。それがきっかけになり、「税」について調べてみたところ、日常生活に関わっている税金はたくさんあるということが分かりました。

一例として、私が学校で快適に学ぶための教科書や机、椅子などにも税金は生かれています。そして、教科書もそうです。もし、今、税金で負担してくれている分を個人で支払うとなれば、中学生で、今費やしている分に加え、教育費など、他のものも含めると、一カ月あたり約9万円もプラスされるそうです。そうなるなら、学校に通えない人も出てきますが、学習することで未来を生きる子どもたちが成長していくのだからという思いで、今や教科書の無償給与は世界中で行われているそうです。そう考えると、税金は、私たちの将来を見通した成長の手助けをしてくれているのだなと思いました。しかし、少子高齢化が進む現在を考えると、

てみると、この先を考えても、医療や年金、介護のために必要なお金は増えていくことになるでしょう。2050年には、若い人一人でお年寄り一人分の生活を支えることになるそうです。社会の変化に合わせて税の仕組みも考えていかなければならないことが分かりました。このままでは、生活を助けるための税に負担感を覚える人も増えてしまいそうですし、今でも税に対して、よいイメージを持っていない人は多くないように思います。

そこで私は「もし税がなかったら……」と考えてみました。教科書や机や椅子も個人購入ですが、その前に校舎がありません。学校に通うどころか、病気になっても受診もできずに命を落としてしまうかもしれません。つまり、私たちが「当たり前」と思い込んでいる「生活が失われるのだ」と思いました。学校で学び、友達との思い出を作ってきた日々や、救われた命、そしてそれによって築かれる未来は、決して当たり前ではないのだということ。ですから、税に嫌悪感をもっている人はもちろん、私を含む全ての人々が、今一度、考えてみるべきだと思えます。そもそも税が何に使われているのか。自分が知っている以上に、税は身近なものだということを……。

——「税って何だかわかる？」今の私ならはつきり答えることができます。「みんなのために、みんなが納めることで、みんなの生活や未来を支えている、そしてこれからも支えていくものだよ」と。

### 「教育長」コラム

リニューアルされた白い校舎が姿を現しました。校舎正面には藤里学園の新しい校章が！

藤里学園の校舎改修工事が進んでいます。外壁塗装工事も終了し、足場も取り除かれ、校舎全体を眺めることができるようになりました。校舎正面には義務教育学校藤里学園の新しい校章（藤色）が取り付けられております。現在は、グラウンドに面した前期課程棟と正面東側の特別教室、体育館、プール、外構工事が進められております。令和五年二月には内装工事も終了し、小学校の引越しも可能になる予定です。

十一月十七日、小中「町づくり学」発表会（小と中をオンラインで繋ぐ）を行った後、今年度の取組の中間報告を行う小・中学校の第二回学校運営協議会を開催しました。委員の皆さんからは、①自分の言葉で話して、表現する力が身に付いてきている。②児童なりの考えをもった体験であり、よいプログラムだ。③目標達成に向けた取組が具体的に内容が濃い。反省を次に生かして取り組んでいる。④発表会をもっと外に開くことで、町を巻き込んだ取組になるのではないかと、町づくり学」に関して貴重なご意見を頂きました。今後の学習に生かして参ります。この他に、英語教育の充実の方策やスポ少・部活動の今後の在り方、学童保育に関する質問等があり、今後の方向性について説明しております。

（教育長 金野 尚人）